

山梨県韮崎市

羽根前遺跡

韮崎市立甘利児童センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1999

会会所
員查務
委調事
務社
育跡祉
教遺福
市市市
崎崎崎
韮韮韮

山梨県韋崎市

羽根前遺跡

韋崎市立甘利児童センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1999

会員会務調査員委員事祉福遺跡教育市市市市

韋崎韋崎韋崎韋崎

序 文

茲崎市ではこれまでに県営圃場整備事業や民間開発により多くの遺跡が発掘調査されています。最近では市立北東児童センター建設に伴う宮ノ前第5遺跡の調査をはじめ、市単独の公共事業に係り多くの遺跡が発掘調査され貴重な文化財が発見されております。この度発刊された本報告書は、遺跡の宝庫である本市の南側に位置する地域にあり、甘利児童センター建設事業に先立って平成10年度に発見された、羽根前遺跡の報告であります。

羽根前遺跡の西に接する南宮神社は、新羅三郎義光の尊崇を受け、武田信義の男一条次郎忠頼以来崇敬あつく代々一条氏の産神として尊敬をあつめた神社です。今回このような由緒ある神社の東側において、発掘調査が行われ、中世の遺物などが出土したことは、当地に古来より人々が生活をおこなっていた明確な証しとなりました。遺構や遺物の詳細は報告文に譲りますが、本遺跡から発見されたものは当時の社会や文化を知る上で貴重です。これらの資料を文化財として永く後世に伝えて行きたいと思います。本報告書が我々の先人の生活と歴史をときあかすための手助けになればと願っております。

最後に、遺跡の発掘調査並びに報告書作成に伴い、多大なる御理解と御協力を賜った関係諸機関及び関係者の方々に深く感謝を申し上げます。

平成11年3月31日

茲崎市遺跡調査会

茲崎市教育委員会

会長 小野修一 教育長 輿石 薫

例　　言

- 1 本書は、山梨県韮崎市大草町上条東割788番地に所在した羽根前遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、韮崎市立甘利児童センター建設工事に係り行われた。
- 3 遺跡の名称は、小字名を採用した。
- 4 発掘調査は、韮崎市福祉事務所からの委託を受けて、韮崎市遺跡調査会が実施した。調査組織は別に示すとおりである。
- 5 整理作業および報告書作成にかかる業務は韮崎市遺跡調査会において行い、山下孝司が担当した。縄文時代土器は閑間俊明、石器は秋山圭子の観察による。
- 6 凡　例
 - ① 遺構の番号は発掘調査現場において付けたものである。
 - ② 縮尺は各挿図ごとに示した。
 - ③ 遺構断面図の水糸標高（m）は数字で示した。
 - ④ 歴史時代土器断面は須恵器のみ黒色にした。
 - ⑤ 写真図版中の遺物に付けられた番号は、実測図の番号と対応する。
- 7 発掘調査及び報告書作成に当たっては、多くの方々から御指導・御協力・御鞭撻をいただいた。一々御芳名を上げることは避けるが厚く御礼を申し上げる次第である。
- 8 発掘調査、整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

調査組織

- 1 調査主体 韮崎市遺跡調査会
- 2 調査担当 山下孝司（韮崎市教育委員会社会教育課）
- 3 調査参加者
秋山東・宮川昌藏・根岸利昭・深沢真知子・小野初美・山本優子・清水知子
- 4 事務局（韮崎市教育委員会社会教育課）
教育長　奥石薰・口野道男（前任者）、課長　山本雄次、課長補佐　深沢義文、係長　藤巻明雄、水上和樹

目 次

序 文

例 言

目次・挿図目次・写真図版目次

I	発掘調査の経緯と概要	1
1	発掘調査にいたる経緯	
2	発掘調査の概要	
II	遺跡の立地と環境	1
1	遺跡の立地	
2	周辺の遺跡	
III	遺跡の地相概観	2
IV	遺構	6
V	遺物	8
VI	おわりに	11
	写真図版	

挿 図 目 次

第1図	羽根前遺跡①と周辺の遺跡	3
第2図	羽根前遺跡発掘調査位置図	4
第3図	羽根前遺跡全体図	5
第4図	1号土坑、2号・3号土坑、1号溝、凹地平・断面図	7
第5図	1号土坑出土遺物	10
第6図	1号溝出土遺物	10
第7図	凹地出土遺物	10
第8図	長塚道上遺跡位置図	12
第9図	長塚道上遺跡調査区	12
第10図	第1号・2号住居跡断面図	12

写 真 図 版 目 次

図版1	遺跡調査前風景、1号土坑、発掘風景
図版2	2号・3号土坑断面土層、2号・3号土坑、遺跡近景
図版3	土坑群、1号溝、凹地、発掘風景、測量風景
図版4	1号土坑出土遺物、1号溝出土遺物、凹地出土遺物

I 発掘調査の経緯と概要

1 発掘調査にいたる経緯

平成10年6月に韮崎市福祉事務所から、児童センター建設にかかる韮崎市大草町上条東割788番地の開発に関して埋蔵文化財取り扱いの事前協議が韮崎市教育委員会にあった。当該地域は南宮神社の隣接地で、かつて山であった所を甘利小学校建設に際して削り運動場にした経緯があり、遺跡の存在は予想されなかったが、遺跡有無確認の試掘調査を行った結果土師器破片が出土して、暗褐色土の落ち込みが確認された。このため本市教育委員会と福祉事務所側では急遽協議を行い、遺跡名を羽根前遺跡、調査主体を韮崎市遺跡調査会として、建設工事に先立って面積約100m²を対象として緊急の発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

2 発掘調査の概要

発掘調査期間 平成10年8月4日～8月13日

調査は重機により遺物出土面乃至遺構確認面まで排土作業を行い、地形等を考慮し測量の基準として、任意に5m間隔の方眼を設定し、鋤兼等を用い精査を行い遺構確認後掘り下げを行った。また隨時補助的試掘溝を設定し、遺構の確認等を図った。調査区域内は運動場の砂を取り除くと、下はすぐにローム土となり、遺構はローム土層を掘り込んである。

調査区域は東西方向が長いほぼ長方形の範囲で、南東側には溝と大きな落ち込みが発見され、そのほかは、土坑が発見された。

平成10年8月4日～8月13日の調査について遺物等の整理作業を行い、報告書作成までの作業が完了したのは、平成11年3月であった。

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の立地

羽根前遺跡は、山梨県韮崎市大草町上条東割地内に所在した。

韮崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・塩川により、地形的にはほぼ山地・台地・平地の三地域に分けられる。

韮崎市の西部には、南アルプスの一部である地蔵ヶ岳(2780m)・觀音岳(2841m)・薬師岳(2765m)・鳳凰山(2840.9m)などの高山が連なり、その前衛として巨摩山脈北部の山々がほぼ南北に走り、その中の甘利山は標高1672mと、約1000mの高度差を示している。さらに一段下がって、城山・荒倉高地の北側の荒倉山は1130mの高さである。これらの山地は、大きな三段の階段状をなしている。これらの山地からはおおむね南西から北東の方向に大小あまたの溪流が流出して、それぞれの扇状地を造り、その扇状地は高位段丘を造っている。また河川の両側にはそ

それぞれ幾段かの中位・低位の段丘ができている。釜無川は北西から南東に流れ、台地末端の急崖の下に氾濫原を造り、しばしば大きな水害を起こしている。扇状地の下部には、対岸の七里岩台地と同様な、八ヶ岳に起因する蘿崎火砕流がはさまれている。特に東端の竜岡台地の基部はほとんどこの火砕流から成り、直径数メートルの巨大な安山岩の塊をも含んでいる。この西部山麓台地の集落は、台地の表面、緩斜面の平面上にかなり密集して発達している。川岸の段丘の多くは狭長で、しかも急峻な山地から流れ出すために、多量の砂礫を押し流して来るので、耕地はあまりなく、したがって集落もあまり発達していない。これに引きかえて台地上は古くから開け、西郡路に接続する武川路の重要交通路が通り、早くから開け、古代から中世にかけては豪族の根拠地となつた。遺跡の所在する羽根集落は、南宮神社の西よりの北にあり、この付近は台地の末端で一面にローム層に覆われている。(『蘿崎市誌』下巻) 羽根前遺跡は南宮神社の東隣の標高約383mに発見された。

2 周辺の遺跡

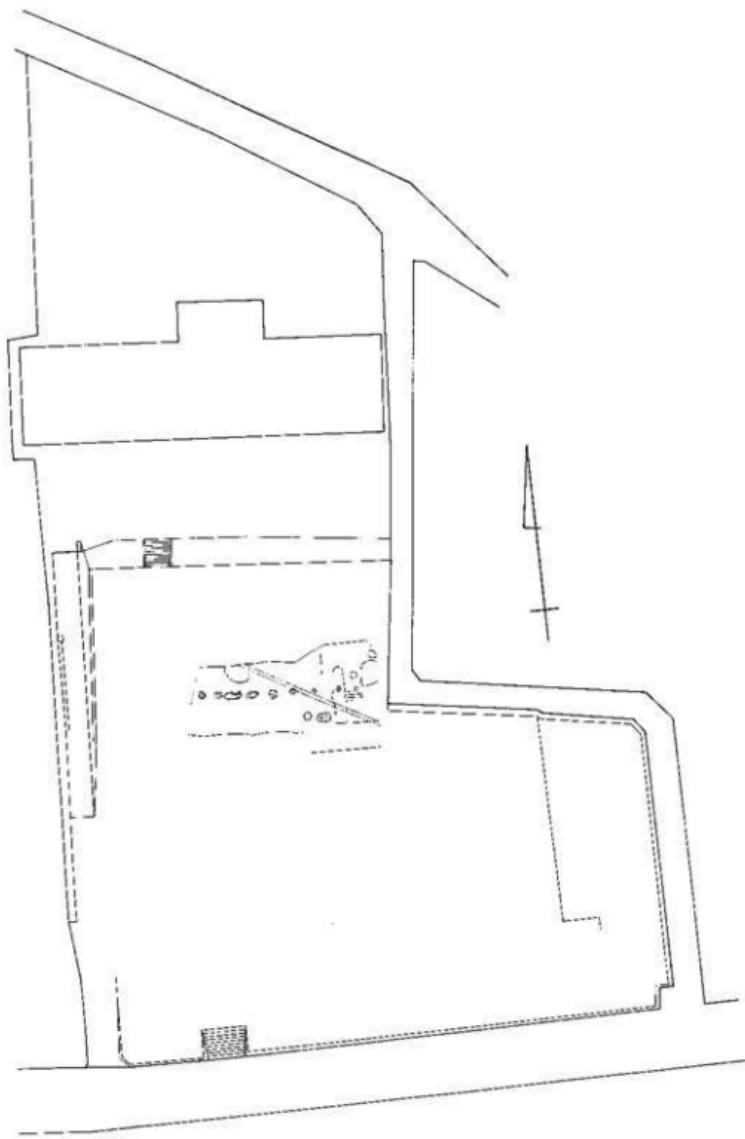
番号	遺跡名	時代区分	備考
①	羽根前	縄文・中世・近世	
②	久保屋敷	縄文・弥生・古墳	昭和58年度 山梨県埋蔵文化財センター調査
③	金山	縄文・弥生	
④	築地	縄文	
⑤	下馬城	縄文・弥生	
⑥	長塚道上	弥生	
⑦	馬塚道下	縄文・弥生	
⑧	唐土神社	古墳	
⑨	大輪寺東	弥生・平安・中世	平成元年 山梨県埋蔵文化財センター調査
⑩	永明院墓址	中・近世	
⑪	秋山但馬守屋敷	中・近世	
⑫	将棋頭	近世堤防	

III 遺跡の地相概観

羽根前遺跡は、釜無川右岸段丘上のローム層に覆われた安定した土地に立地する。位置的には羽根集落の南側にあたり、南宮神社の東隣にある。神社を中心に集落が集まっており、その周囲に畠などの耕作地が形成されるが、最近は新興住宅がつくられて景観を変えつつある。

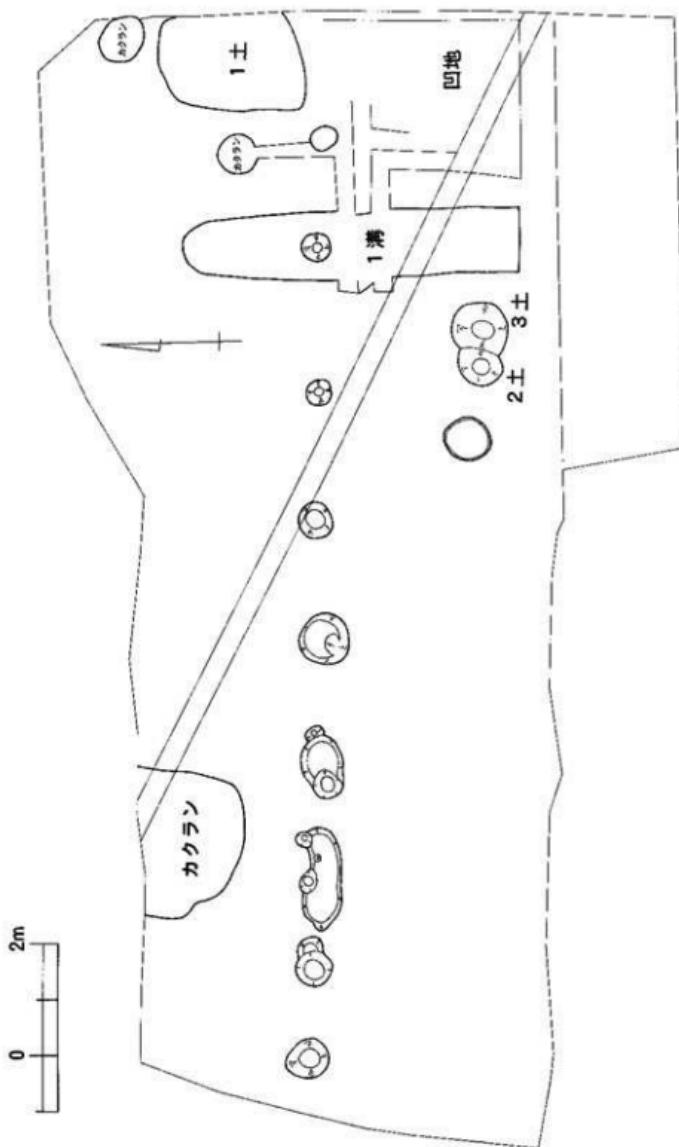


第1図 羽根前遺跡①と周辺の遺跡 (1/25000)



第2図 羽根前遺跡発掘調査位置図 (1/600)

第3図 羽根前遺跡全体図 (1/100)



IV 遺構

調査の結果発見された遺構は、土坑3基、直線的に並ぶ土坑群、溝1条、凹地1基である。直線的に並ぶ土坑群は、径1m~1m50cm前後で、2m間隔程で並んでいる。土坑内から一部瓦礫や砂が認められており、比較的新しい時期のものと思われる。水道施設にかかわると思われる掘り込みが調査区域を斜めに横切っている。

〈1号土坑〉(第4図)

1号土坑は調査区域中東端に位置する。東西方向は1m70cm程、南北方向は2m50cm程の規模があり、平面形態はやや不整な隅円長方形となっている。壁は外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは30cm~50cmで、南側で一段高くなっている。北側は円形の土坑となる。土坑内円形の床面直上には、白色に変化した鰐殻が一面にみられた。本土坑からの遺物は、刃渡り8cm程の折り畳みナイフと寒暖計のガラス棒が出土している。

本地域はかつて山であったことは先に述べたが、この山の縁辺部に戦中から戦後にかけて芋穴を掘っていたことがあるという。芋穴は芋の芽だしを行う所で鰐殻を敷き詰め使用したようである。本土坑はこの芋穴と思われる。

〈2号土坑〉(第4図)

2号土坑は調査区域南側にあり、東側は3号土坑に切られている。規模は径70cm前後、平面形は不整の円形で、確認面からの深さは45cm前後。壁はやや外傾しながら立ち上がる。埋没土は、しまりのある暗黄褐色土で、出土遺物は無い。

〈3号土坑〉(第4図)

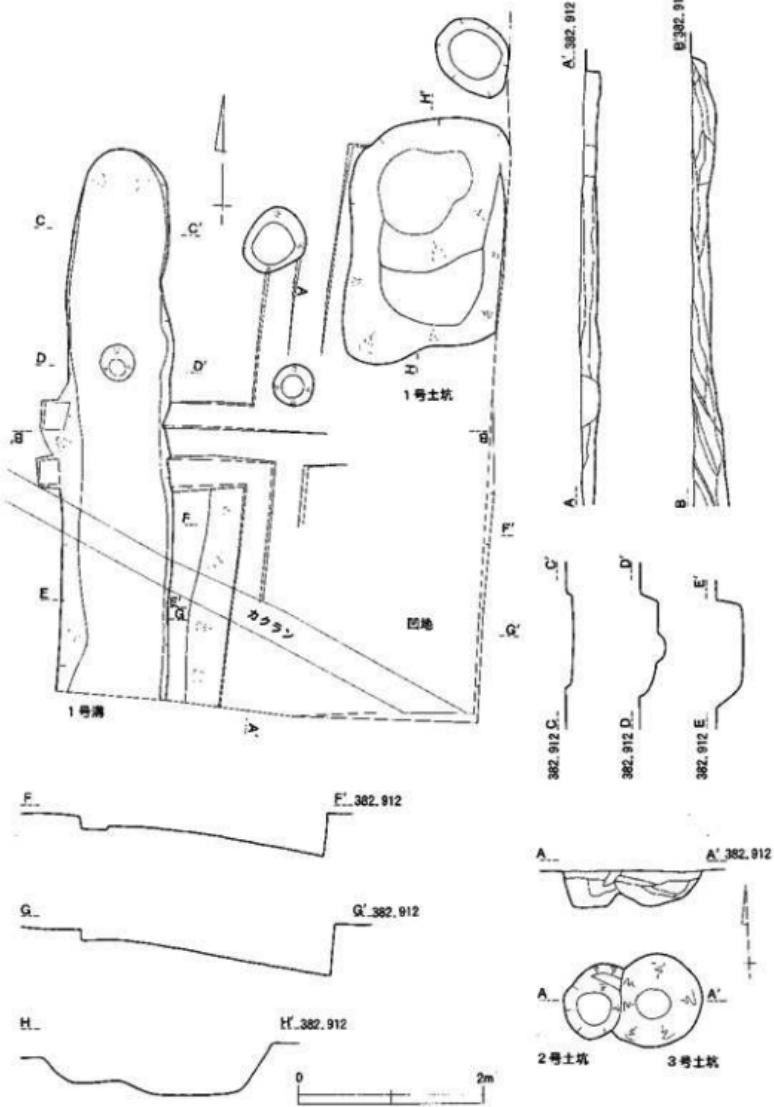
3号土坑は調査区域南側にあり、西側で2号土坑を切っている。規模は径1m前後、平面形は円形で、確認面からの深さは45cm前後。壁は外傾しながら立ち上がる。埋没土は、ややしまりのある暗黄褐色土で、出土遺物は無い。

〈1号溝〉(第4図)

調査区域東側に位置する。北から南にかけて傾斜する溝で、南側は調査区域外で完掘はできなかった。幅60cmで、確認面からの深さは3cm~15cmと北から南にかけて深くなっている。本遺構からは、縄文土器破片と須恵器片が出土している。

〈凹地〉(第4図)

調査区域東側に位置する。1号溝の東側にあり、暗褐色の落ち込みを発見し掘り下げる。当初堅穴状の遺構と考えたが、硬化した面がだらだらと斜めに落ちて行くだけであり、凹地とした。本遺構は1号土坑を切っており、時期的にはそれよりも新しいものといえるが、性格等の詳細は不明。埋没土からは、縄文土器・石器・かわらけ・土師器甕・磁器が出土している。



第4図 1号土坑、2号・3号土坑、1号溝、凹地平・断面図 (1/60)

V 遺 物

調査の結果出土した遺物は、縄文時代から平安時代、中・近世、現代のものと多岐にわたっている。一覧表でみていく。

〈1号土坑出土遺物〉(第5図)

(単位cm)

番号	種類	器形	法量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	ナイフ		長さ 11.7 巾 2.0 柄部 8.1 刃部 1.7	(材質) 柄部—真鍮? 刃部—鉄	暗緑灰色		柄に留め金がついていた痕が みられる。 刃部、柄部共に鋒により腐蝕。
2	寒暖計		長径 27.7 直径 玉部—0.8 柄部—0.5	(材質) ガラス	赤色・白色 透明		アルコール寒暖計 昭和20年代 寒暖計のガラス棒部分のみ

〈1号溝出土遺物〉(第6図)

(単位cm)

番号	種類	器形	法量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	縄文土器	深鉢	—, —, —	白色粒子の目立 つ砂粒と金雲母 を含む	にぶい黄橙色		粘土組貼付後、単節RL横回転 跳織b式 破片
2	須恵器	壺	3.6, 10.9, 5.2	白色粒子の目立 つ砂粒を含む	灰黄色		ロクロ整形 底部一回転糸切り痕 1/6残
-	剥片	-	1.6, 1.6, 0.4	(石材) 黒曜石			固化無

〈凹地出土遺物〉(第7図)

(単位cm)

番号	種類	器形	法量		胎 土	色調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径				
1	縄文土器	深鉢	—, —, —	赤・白色粒子を 含む	にぶい黄橙色 にぶい黄褐色		単節RL横回転文後に半截竹管 (巾4mm)による横位の沈籠 文を施文する。 跳織b式 破片
2	縄文土器	深鉢	—, —, —	白・黒・赤色粒 子を含む	橙色～にぶい橙色		断面巾広のカマバコ状堆織貼付 後に略縦斜に半截竹管による角 押文を施文する。 跳織In式・第3式 破片
3	縄文土器	深鉢	—, —, —	白・黒色粒子を 含む	灰褐色 にぶい赤褐色		断面三角形状堆織による横円横 帶文 Ina～lb式・格沢～新道式 帶文 跳織Ina～lb式・格沢～新道式 破片
4	縄文土器	深鉢	—, —, —	白・黒色粒子、 雲母を含む	にぶい橙色		口縫部直下外面に2条の横位沈 籠文、内面に1条の横位沈籠文 を施文する。 浮織文系(木式) 口縫部破片
5	土師器	甌	—, —, —	赤・白・黒色粒 子を含む	にぶい橙色 にぶい褐色		内面一横擦で 外面一斜め刷毛目 古墳時代 破片
6	土師器	小皿	1.6, 10.1, 8.3	白色粒子の目立 つ砂粒を含む	にぶい褐色		手びねりによる成形の後、ロ クロによる難な撚で整形 底部一回転糸切り痕 1/4残
7	土師器	皿	—, 11.8, —	赤・白色粒子を 含む	にぶい橙色		ロクロによる整形 口縫部破片
8	土師器	小皿	1.8, 8.0, 4.3	白色粒子の目立 つ砂粒を含む	橙色		ロクロによる撚で整形 1/5残

(単位 cm)

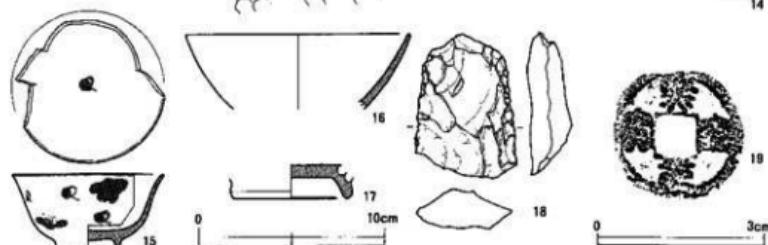
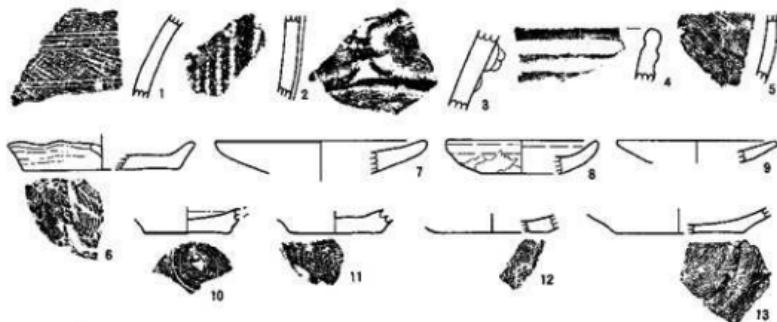
番号	種類	器形	法量	胎土	色調 (内面) (外面)	整形・特徴・その他
			器高・口径・底径			
9	土師器	小皿	—, 8.4, —	多量の金雲母と 黒色粒子を含む	にぶい橙色一部 赤色 にぶい橙色	内外面一横擦で 口縁部破片
10	土師器	小皿	—, —, 4.5	多量の雲母を含む	灰褐色 にぶい赤褐色	底部一回転糸切り痕 底部破片
11	土師器	小皿	—, —, 4.8	赤・黒色粒子、 金雲母を含む	橙色 明赤褐色	内面一みこみ部剥離か? 底部一回転糸切り痕 底部破片
12	土師器	小皿	—, —, 6.0	金雲母、砂粒を 含む	明褐色	底部一回転糸切り痕 底部破片
13	土師器	小皿	—, —, 6.8	赤・白・黒色粒 子、雲母を含む	浅黄褐色	内面一擦で 外面一刷毛目 底部一回転糸切り痕 底部破片
14	土師質	甕	—, 32.0, —	白・赤・黒色粒 子を含む	にぶい橙色 にぶい褐色	内面一横擦で 外面一輪積痕の上に指頭痕 口縁部～胴上部破片
15	磁器	小碗	4.1, 8.1, 3.35		白色	白地に青色の梅の花とつぼみ?の織な 文様 輪足形・脚付・足邊 みこみ部にも一つ文様が入る 2/3段
16	磁器	碗	—, 12.0, —		白色	口縁部～体部破片
17	陶器	碗	—, —, 6.2	白・赤色粒子を 多く含む	明褐色 明赤褐色	近世近代 底部破片
18	石器	打製 石斧	長さ 中 厚さ 7.8, 5.5, 2.4	(石材) 頁岩		裏面は素材成形の為の粗い削 離が四方から入り、一部裏面 を残す。端部の折れは表面側 からの加筆による。未成品
—	剝片	—	長さ 中 厚さ 2.2, 2.3, 0.9	(石材) 黒曜石		固化無
19	錢		直徑 中 穴徑 2.3, 0.1, 0.7	(材質) 銅		「熙寧元宝」 (熙) 北宋 1068年初鑄



第5図 1号土坑出土遺物 (1/3)



第6図 1号溝出土遺物 (1/3)



第7図 凹地出土遺物 (1/3、鉢は1/1)

VI おわりに

羽根前遺跡周辺では、発掘調査された遺跡は数少ない。北西に約1.3km離れた久保屋敷遺跡は、県道改良工事に伴い山梨県埋蔵文化財センターにより調査され、古墳時代初頭の集落跡が確認されている。また、南東に約700m離れた長塚道上遺跡は、宅地造成に伴い古墳時代前期の住居跡が確認されている。久保屋敷遺跡は山梨県教育委員会から報告書が刊行されているが、長塚道上遺跡は韮崎市遺跡調査会による確認調査であったため報告書になっていないので、ここにその概要を報告し、羽根前遺跡理解の一助としておきたい。

長塚道上遺跡は、韮崎市竜岡町字長塚道上989外に所在し、標高373mの丘陵の緩斜面東側に立地する。宅地造成にあたり平成9年6月12日～19日に埋蔵文化財の有無確認を行ったところ、現状において、塚のような円形の高まりに遺跡の存在を確認した。道路により削平される範囲を対象として調査を行った。平面形態は確認することができず、断面により、竪穴住居跡が2軒あることを確認した。（第8・9・10図）。

1号竪穴住居跡は、床面は堅緻である。断面観察では、西壁は緩やかに立ち上がっているが、東壁は地山のⅢ層（ローム）に段を進えて掘られている。他の遺構との重複なのか、住居の付帯施設なのかは判断し得なかった。覆土5層には、焼土粒子や炭化物粒子が多く含まれていることから、本住居跡は焼失住居跡と考えられる。又、覆土4層からおそらく古墳時代前期と考えられる土師器が出土しているが、図化しうるものは出土しなかった。

2号竪穴住居跡は、1号竪穴住居跡の東側に位置し、1号よりも下部の層から住居の掘りこみを確認することができたことから、1号よりも古いものと考えられる。住居跡東側は大きく削平されており、規模は不詳である。1号と同様に古墳時代前期と考えられるS字状口縁台付壺の胸部破片や小型壺の口縁部破片等が出土しているが、図化しうるものは出土しなかった。

韮崎市内には古墳時代の集落跡が多数確認されているが、長塚道上遺跡の所在する竜岡町周辺にはこれまで、その所在をほとんど確認されていなかった。しかし、本遺跡の存在が明らかになったことにより、古墳時代にこの地に居住活動が行われたことが明らかになったことは、有意義なことである。
（閔間俊明）

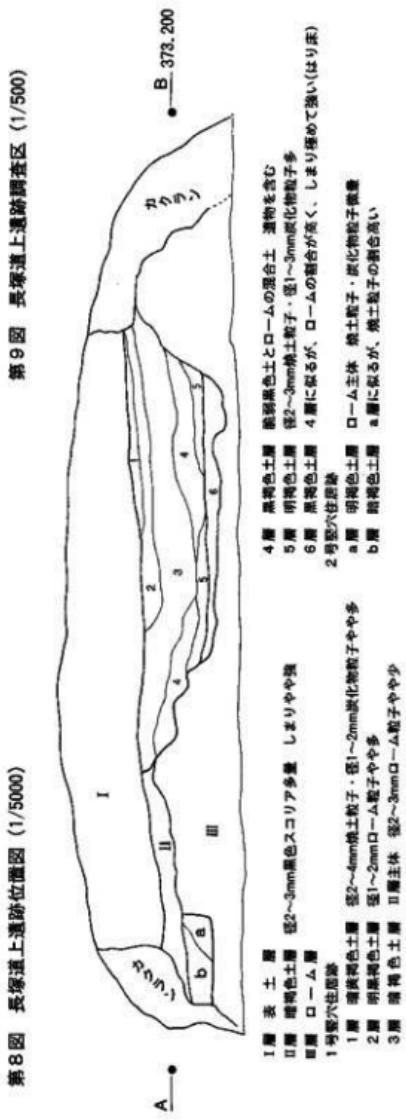
今回の調査で発見された遺構は、前章までみてきたように土坑3基、土坑群、溝1条、凹地1基となっており、遺物も縄文時代から現代に至るまで広範囲に展開している。

羽根前遺跡は韮崎市域において、縄文時代中期・弥生時代の遺跡として認識されており、土師器の破片も出土している。遺跡の範囲は南宮神社から南東側に広がりをもち、今回の調査地点はその北西辺にあたっている。部分的には既に削平された場所での発掘調査ではあったが、遺構と遺物が確認されたことは、当該時期の人々の生活を考究するうえで重要な発見であったといえよ



第8図 長塚道上遺跡位置図 (1/5000)

第9図 長塚道上遺跡調査区 (1/500)



う。また、久保屋敷遺跡や長塚道上遺跡などの古墳時代前期の遺跡の広がりは、古くから本地域が利用されて生活の舞台となっていたことを物語っている。さらに南宮神社に中世の六地蔵石幢の破片があり、この地域に古来綿々と歴史が展開していたことを示している。今回調査された羽根前遺跡はこれら長い歴史の一段面を切り取り、世に公表されたもので貴重な発見であったとうことができよう。

本報告は限られた時間のなかでの作業によりまとめられたものであり、遺構と各遺構から出土した遺物を中心に資料化を試み、それらを掲載・提示したに過ぎない。調査の成果と資料の詳細な検討・考慮が行われず、不十分なことは否めないが、今後の調査研究に資すれば幸いである。

写 真 図 版



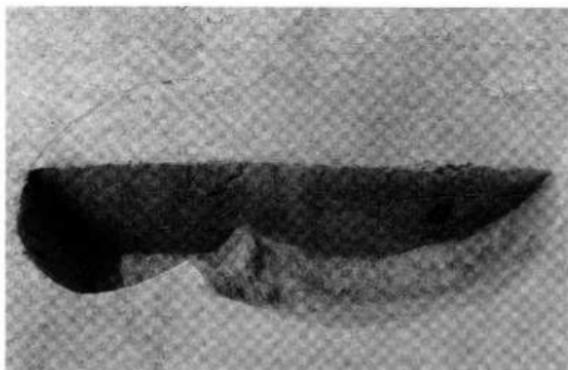
遺跡調査前風景



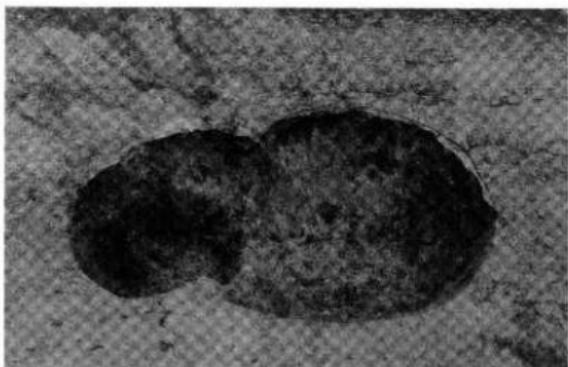
1号土坑



発掘調査



2号·3号土坑断面土层



2号·3号土坑



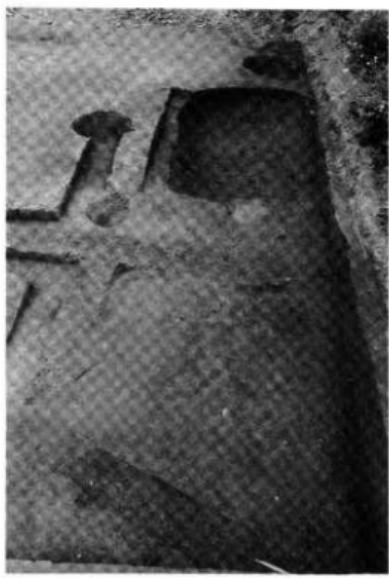
道路近景



土坑群



1号溝



凹地



発掘風景



測量風景



1



2

1号土坑出土遗物



1



2

1号溝出土遗物



1



2



3



4



5



6



14



8



15



15(内面)



18

凹地出土遗物

羽根前遺跡

平成 11 年 3 月 31 日 発行

発行 荘崎市遺跡調査会

〒407-8501

山梨県莊崎市水神一丁目3番1号

TEL 0551-22-1111(代)

印刷 有限公司 タクト/印刷・デザイン

